

資料

2024年度における動物に関する問い合わせ状況

中島淳・石間妙子・更谷有哉・石橋融子

2024年度に県庁各課・保健福祉環境事務所や市町村などからの動物に関する問い合わせのあった60件について概要をまとめた。問い合わせは電話や持ち込み、電子メールにより、県庁各課・保健福祉環境事務所・県警察等の県機関から35件、市町村から6件、一般県民から19件であった。前年度7件の問い合わせがあった特定外来生物ツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼は3件、前年度17件の問い合わせがあった鳥インフルエンザ疑い死亡鳥類の同定依頼は6件であった。また、ゴケグモ類疑い種の同定依頼は7件、外来アリ類疑い種の同定依頼は6件であった。その他、これまで福岡県内から正式な分布記録がない特定外来生物ヌートリアが北九州市内で捕獲されたので報告する。

[キーワード：アリ、ハチ、クモ、ヌートリア、外来種、生物多様性]

1 はじめに

当所では窓口依頼検査として生物同定試験を実施しているが、それ以外にも日常的に電話や持ち込み等による生物に関する問い合わせに対応している。本報では2024年度に寄せられた問い合わせのうち、動物に関するものについてその内容をまとめた。

2 方法

動物に関する各問い合わせについて、依頼元を県、市町村、民間業者、一般県民、その他の5つに区分した。また、問い合わせ内容については不明種に関する同定依頼、ゴケグモ類（セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモなど）疑い種の同定依頼、マダニ類疑い種の同定依頼、ツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼、外来アリ類（ヒアリ、アルゼンチンアリなど）疑い種の同定依頼、鳥インフルエンザ感染が疑われる死亡鳥類の同定依頼、その他、の7項目に区分して整理した。

3 結果及び考察

表1に2024年度の各月における内容別の問い合わせ件数を示す。全体で60件の問い合わせがあり、最も問い合わせが多くたのは7月と8月の8件で、次いで4月、5月、9月、11月が6件であった。記録をしている2010年度以降の年間の問い合わせ件数は2022年度のみ117件と突出しているが、2010年度から2021年度及び2023年度は24-68件、平均56.1件で¹⁾、2024年度の問い合わせ件数は例年と同程度であった。

図1に問い合わせ元別の件数を示す。問い合わせは県機関からのものが35件と最も多く、そのうち保健福祉環境事務所からの問い合わせが多くたが、ほぼすべての場合において所管市町村または県民からの問い合わせの仲介であった。市町村からの依頼も同様に一般市町村民からの問い合わせの仲介であった。依頼元の傾向は過去と比較して、大きな違いはなかった。

表1 各月における内容別の問い合わせ件数

質問内容	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
不明種	2	3	5	3	3	3	3	3	3	2	1	0	28
ゴケグモ類疑い	1			2	1		1	1	1				7
マダニ類疑い													0
ツマアカスズメバチ疑い		1			1	1							3
外来アリ類疑い		1		2	2	1							6
鳥インフルエンザ疑い死亡鳥類	1						2	1	1	1			6
その他	2	1	1	1	1			1	1	2	2	2	10
計	6	6	5	8	8	6	4	6	3	4	2	2	60

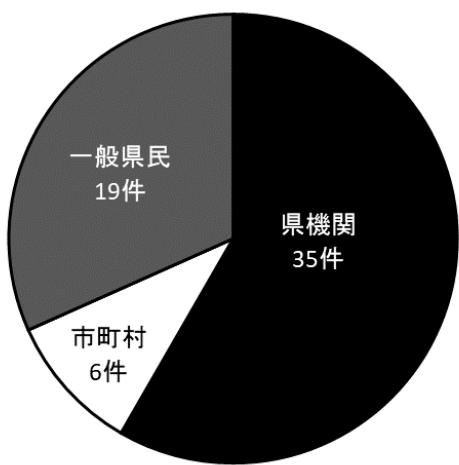


図1 2024年度における問い合わせ元別の件数

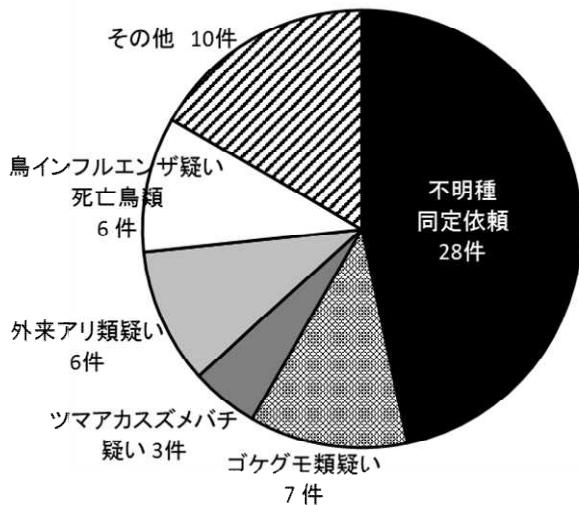


図2 2024年度における問い合わせ内容別の件数

問い合わせの具体的な内容は不明種に関する同定依頼が28件で最も多く、次いでその他が10件、ゴケグモ類疑いが7件であった(図2)。

不明種同定依頼において種まで同定できたのは、ヌートリア、シロマダラ(2件)、ジムグリ、スッポン、ニホンマムシ、ニホンヒキガエル、ニホンアマガエル、ウシガエル、コガタブチサンショウウオ、コケオニグモ、イトグモ、セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ、オオキンカメムシ、コガタノゲンゴロウ、ヒメマダラカツオブシムシ、ゴマダラカミキリ、シンジュノキノカワガ、ヤマトスナハキバチであった。

ゴケグモ類疑い種として問い合わせがあった7件のうち、セアカゴケグモであったのは4件で、その他はマダラヒメグモ(1件)、不明(2件)であった。

ツマアカスズメバチ疑い種として問い合わせがあった3件はいずれもツマアカスズメバチではなく、キイロスズメバチ、エントツドロバチ、アメリカジガバチが各1件であった。

外来アリ類疑い種として問い合わせがあった6件はいずれもヒアリやアルゼンチンアリ等の外来アリ類ではなく、ルリアリ(1件)、ハリブトシリアゲアリ(1件)、オオズアリ属の一種(1件)、不明(3件)であった。

鳥インフルエンザ疑い死亡鳥類として問い合わせがあった6件はマガモ、コガモ、ヨシガモ、ホシハジロ、カンムリカツブリ、フクロウが各1件であった。

今年度の問い合わせにより同定を行った動物のうち、ヌートリアは2024年5月9日に北九州市戸畠区菅原の天籟寺川で北九州市役所により捕獲がなされた後に、当研究所に同定依頼があったものである(図3)。頭胴長48.7cm、体重4.3kgのオス個体であった。本種は外来生物法に基づく特定外来生物に指定されており、これまで県内では標本に基づく確実な記録はなかった。本報が福岡県からの初記録となる。同地ではその後の調査において別の個体は発見されていないが、今後定着しないようその動向に注意する必要がある。本個体は現在、剥製標本として当所で保管している(福岡県備品2400005144)。



図3 戸畠区で捕獲されたヌートリア(剥製標本)

本報をまとめにあたり、クモ類の同定に際してご教示いただいた馬場友希博士(国立研究開発法人農業環境技術研究所)、ヌートリア標本譲渡にあたり便宜を図っていただいた北九州市環境局にこの場を借りてお礼申し上げる。

文献

- 中島淳, 石間妙子, 更谷有哉ら:福岡県保健環境研究所年報, 51, 148-149, 2024.